

とよなかの市民活動 共同デスク

2012年2月発行 第2号

とよなかの市民活動・共同デスク実行委員会

(社福) 豊中市社会福祉協議会

(財) とよなか国際交流協会

(財) とよなか男女共同参画推進財団

(特活) とよなか市民環境会議アジェンダ21

(特活) とよなか市民活動ネットきずな(事務局)

TEL&FAX: 06-6848-8989

ふらっと、立ち寄れて “ほっこり”できるスペース

世代や立場の違いをこえて、自由な意見交換や交流ができるスペース3箇所を取材しました。

豊中市社会福祉協議会

ボランティアカフェ



すこやかプラザの2階にあるボランティアセンターで、第1月曜日、第2火曜日、第2木曜日、第4金曜日にオープンしています。一杯100円、お菓子つき。

カフェのマスターは、現在、社会福祉協議会の登録グループ在宅支援ボランティアグループ「さわやか」「ステッキ」「小さな手」「みちるべ」が担当。

とよなか国際交流協会

哲学カフェ



「哲学カフェ」では、日常生活から科学、芸術まで様々なテーマで参加者みんなで問いや意見を出し合います。

とよなか国際交流センターで、世界のお茶を飲みながら参加者が議論を楽しみます。

・二カ月に一回、第三土曜日に開催。

・共催 カフェフィロ とよなか国際交流協会

とよなか市民活動ネットきずな



地域の活動場所をたずねて

ウィークリーサロンは、市民活動情報サロンを受託運営している市民活動ネットきずなの取り組みです。2011年の企画として、市民活動情報サロン以外にも出張して市内にある地域の交流スペース等を訪ねています。お茶を飲みながら、市民活動に関することを気軽にしゃべりできる場が、市内のあちこちでできればと思っています。

共同デスク・コラム

市民会館の閉鎖に伴い、今年度初めて「とよなか市民環境展」を豊島体育館で開催しました。初めての会場なので、初めての調整ばかり。

例えば、体育館の近くの豊島温水プールの駐車場に展示者の搬入用駐車場を確保しようとしたら、「環境部公園みどり推進課」(駐車場の収入管理)

「教育委員会スポーツ振興課」(駐車場の指定管理の委託元) 「スポーツ振興事業団」(駐車場の指定管理団体)と、手続きを進める必要があるという話しになったり、行政の縦割りを非常に実感しました。

一方で、近隣の商店街との連携のために「市民協働部地域経済課」へ協力をお願いしたりということなども含めて、「環境」というテーマでも行政のたくさんの部署との関わりがあったとも言えるでしょう。いずれにしても、開催を通して貴重な経験となりました。

(とよなかアジェンダ21 廣田)

社会福祉協議会 ボランティアカフェ

ほっとひといき、午後のコーヒータイム

おしゃべりにいらっしやいませんか？



取材日は、ボランティアグループ・ステッキが担当で、いろいろとお話をうかがいました。ボランティアカフェは、2010年8月、オープン。社協がボランティアの応援をえて、印刷・発送作業をしているときに、「ここでカフェをしよう」とでた話題がきっかけです。当時、小地域福祉活動のふれあいサロンで行われていたカフェがヒントでした。

地域ボランティアは、お喋りの場がほしいと思っています。自分も何か持っていきたくて協力して下さる方もいます。カフェマスターは、難しく考えないで、楽しくできていればよいとおもっています。ルールも特になく責任感も少ないです。この前は、近くの病院の患者さんが来てお喋りにきてくれました。

担当のボランティアグループと話がしたいときてくれる方もいます。取材時には椅子に座ってゆっくりする人はいませんでした。来客人数は日によって様々だそうです。社協の職員さんやすこやかプラザ関係者がマイカップを持って来てこの日だけでも10杯以上は売れていました。カフェマスターと数分話しこまれる様子もみられました。分かりにくいところにあるボランティアセンターで、何かやっていることをアピールしていきたい...と話されました。

(とよなか国際交流協会 阿部/2011年11月7日)



ボランティアセンターの入口です



センターはコーヒーメーカーと、場の提供だけ

市民活動情報サロン ウィークリーサロン

地域の活動場所をたずねて けやきの会(千里園)

千里園にある「けやき亭」で開かれたウィークリーサロンは、11人の参加がありました。「けやき亭」は、「けやきの会」代表の梶本さんが退職後に自宅の庭に建てたもので、メンバーが集ったり、会の事務所にもなっている、まさに“サロン”と呼ぶにふさわしいような場所です。

この日は、まず梶本さんから、けやきの会の活動紹介や想いを話されました。会は、大阪府立北野高校の同窓生が中心となり、2002年から活動を開始。小中学校の先生など教育関係者を対象にサロンを開いたり、子育て世代の保護者を対象に子育てやいじめをテーマとしたフォーラムなどを開催しています。

参加者全員の意見交換では、けやきの会の活動のことから、学校現場の現状、参加者の各世代の考えまで幅広いものでした。けやきの会でご用意くださったお茶やコーヒーを飲みながら“ほっこり”と話を聞いていると、あっという間に予定の終了時間を30分も過ぎていました。最後は、いろんな「きずな」を作っていくことが必要であることを参加者で共有。次の活動に向けて、参加者がお互いにエネルギーをもらえる場の重要性を感じあえたサロンでした。

(とよなかアジェンダ21 廣田/2011年11月17日)

6月22日、街かどデイハウスハーモニー(原田元町)。「野の花」市民活動のスペースとして開放。

7月21日、ハウジングカフェ(株)コムネット(寺内2丁目)。事業所の中の市民活動開放スペース。

9月27日、庄内図書館(三和町)。図書館でサイクル本の販売やカフェを運営する庄内REK。

10月19日、ライフ&シニアハウス千里中央(新千里西町)。開かれた高齢者の生活空間の見学。



とよなか国際交流協会 「哲学カフェ」風景

「哲学カフェ」に顔を出してみたら、「男らしさ 女らしさ」がテーマだった。参加していたのは、年配の男性、若い男女、中年の男性などかな。若い男性が進行役。カフェのテーマとしては、難しいテーマだなと思っていたが、年配の男性の発言から、カフェは始まった。男とは、女とは、を「生物学」的な視点から「理屈っぽく」語り始めた。途端に、雰囲気が出た感じ。これで、カフェの議論の基本トーンが決まってしまったようだ。若い男性の進行役もちょっと困ったなという表情で、他の参加者の意見を求める。進行役が意図した「男らしさ 女らしさ」の議論のシナリオからはかなり外れていっている感じだ。きっと、心で「空気を読んでよ」と叫んでいたのかもしれない。

今、カフェやサロンという形の語り合う場所づくりが流行している。よくあるかたい雰囲気の語り合いでなく、気軽に本音を語り合いたいとの思いの企画で、好ましい動きと思う。いろいろなテーマを、いろんな角度から、本音で語り合い、それでいて参加者がいい関係をつくりあげ、いい雰囲気、気持ちよく、また今度と、余韻を残しながら別れることができる「語り合いの場」がいろんなところできるといいと思う。そのために、「必要な条件」は何なのか。この閉塞した時代に、市民が少しはいきいき生きていくために「必要な条件」とも重なっているように思うのだが。

(とよなか市民活動ネットきずな 永田/2011年11月19日)

「先日は話が長くなってしまったが、拘束力なく誰でも自由に参加して話し、聞くことができる場に魅力を感じる」。後日、協会の対話の場で、上記の哲学カフェに参加していた年配の男性が発言した言葉です。一人でもこういった声を聞けると議論が結論までたどり着くことや合意にいたることばかり見るのではなく、話すことでホッとできる場所があるのではないかと考えました。

(とよなか国際交流協会 阿部/2011年12月11日)

1月15日 「苦しみてなんだろう」中川雅道	3月19日 「生活が充実しているとはどういうことか？」杉山知紀	5月21日 「不謹慎とはなにか？」金和永
7月21日 「あいさつってなに？」楠本瑤子	9月17日 「私らしさって？」川崎唯史	11月19日 「男らしさ、女らしさって？」山本聖人

